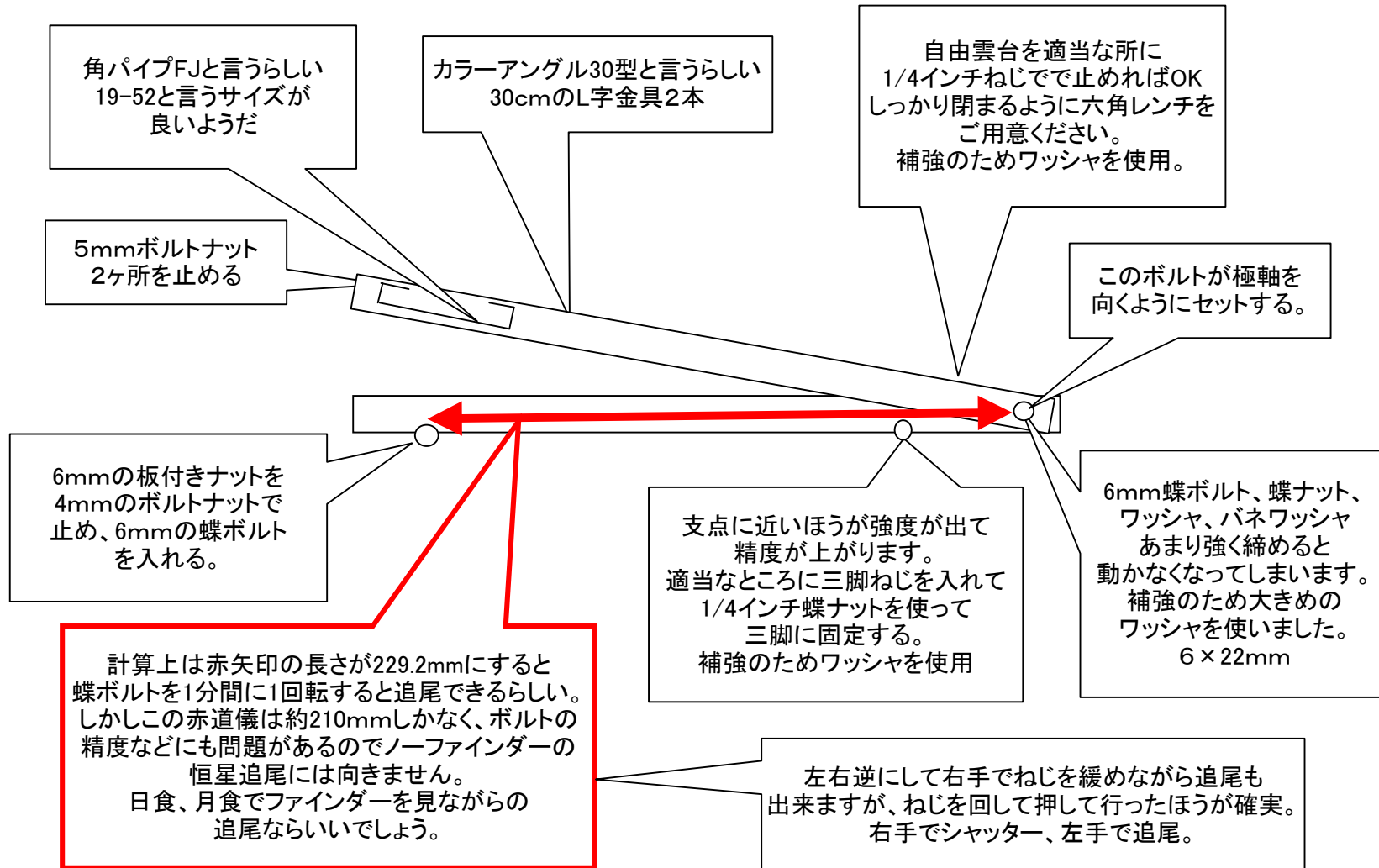


簡易、手動式日食赤道儀の作成

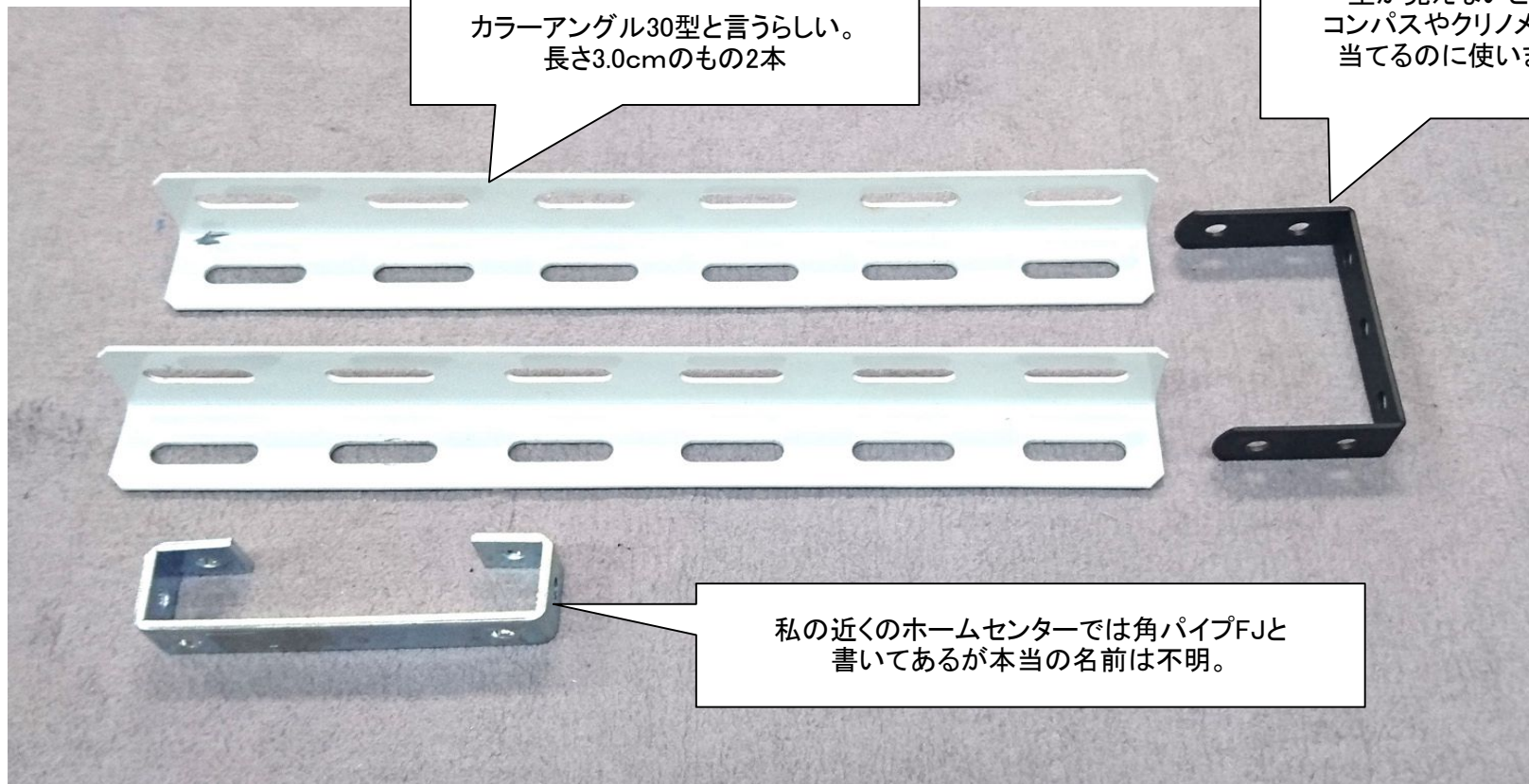


金具類

カラーアングル30型と言うらしい。
長さ3.0cmのもの2本

極軸望遠鏡に使う金具、
星が見えないときは
コンパスやクリノメータを
当てるのに使います。

私の近くのホームセンターでは角パイプFJと
書いてあるが本当の名前は不明。



ネジ類

5mmnの蝶ボルナット
長さは15mmくらいだけど
手元に似たようなものがあれば
それでよい。2本用意。

6mmnの蝶ボルト
40mm

4mmnの蝶ボルナット
長さは15mmくらいだけど
手元に似たようなものがあれば
それでよい。板付きナットを
止めます。2本用意。

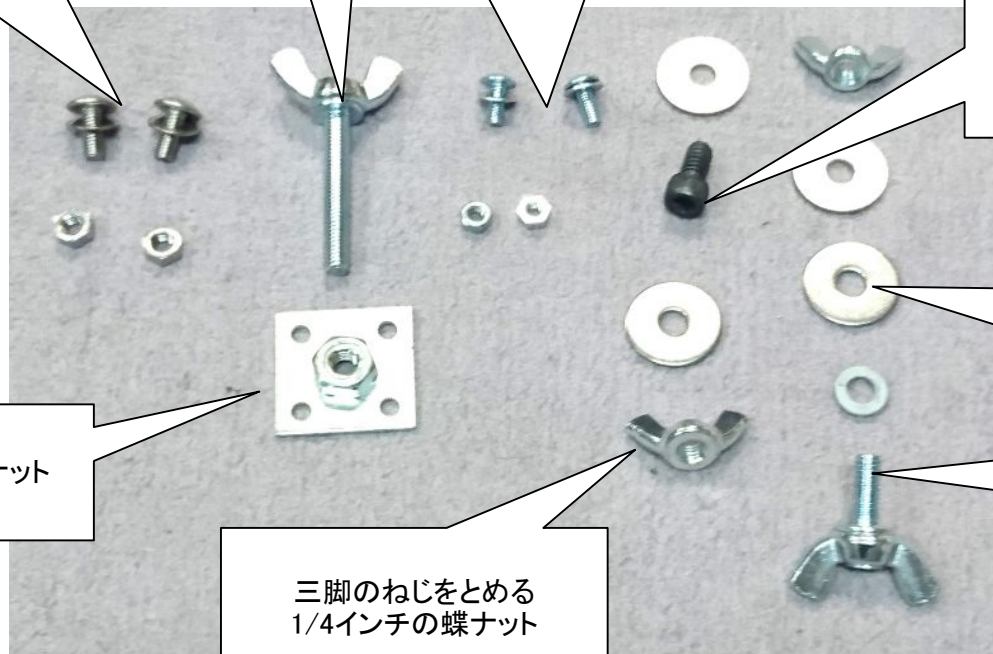
自由雲台を止める1/4インチボルト
ガチット締まるように今回はキャップ
タイプにしました。4mmの
六角レンチをご用意ください。

全体の剛性を上げるために
大き目のワッシャを
4枚使いました。
6mm × 22mm × 1.5mm

6mmnの板付きナット

三脚のねじをとめる
1/4インチの蝶ナット

6mmの蝶ボルトナット
長さ20mm
スプリングワッシャ付き



組み立て

しっかり締めるために
六角レンチをご用意ください。

3脚のネジを締める1/4インチ蝶ナット。
ワッシャを入れてください。

日食の時はだいたいこのような
セットになると思います。
極軸に約90度の方向に
太陽がきます。

3脚と自由雲台、カメラは含まれません。
しっかりとした3脚と自由雲台を
ご用意ください。

自由雲台を固定するのに
4mmの六角レンチが必要です。

北極星の方向。
穴二つを通して北極製が真ん中に
見えるようにセット。
星が見えない時はクリノメータと
方位磁石をこの金具に当てて
角度、方向をセットする

カメラの画像を見ながらだいたい1分間に1周回せばOKです。
約25分の追尾が出来ます。
このネジと支点が229.2mmであれば1分間に1回転で追尾できらしい
ですが、このセットは210mmくらいしかないので1分間に1回転に少し
少ないくらいになります。正確な追尾はでないので
恒星の撮影には向きません。
日食の時はファインダーを見ながら回す速度を調整してください。

